

重点目標  
4

豊かな人生を送るための生涯学習を充実します。

～ 県内の豊富な生涯学習関連施設の活用や、市町村、大学、社会教育団体、NPO等との連携の強化などを通して、生涯にわたり文化芸術やスポーツに親しむ機会を増やしたり、今日的な課題に関する学びと実践の場を充実したりすることにより、自己を高め、豊かな人生が送れるよう生涯学習を充実していきます。

さらに、社会の多様な要請に応えるために、新しい公の担い手となる人材の育成とその活用のための仕組みづくりに努めていきます。 ～

1 平成23年度の主な施策の取組・成果、自己評価

「アクションプランⅡ」第1章の「重点目標4」に掲げた「主な施策」（9項目）について、平成23年度は、以下の事業を中心に取組を進めた。

① 生涯学習推進構想の策定と生涯にわたり学ぶ機会の充実・・・2事業	
区分	内容
主な事業の取組	<p>○ <b>新しい「生涯学習推進計画」の策定準備</b> [詳細160頁]                      平成8年に策定した「愛知県生涯学習推進構想」に代わる、25年度からの5か年計画の策定に向けた準備を進めた。</p> <p>○ <b>「学びネットあいち」学習コンテンツの充実</b> [詳細160頁]                      生涯学習情報システム「学びネットあいち」において、視聴覚教材を始めとする学習コンテンツの充実を図るとともに、より多くの生涯学習関係団体や、博物館、公民館などが生涯学習情報を提供できるよう「学びネットあいち」への新規加入を働きかけた。</p> <p>☆ 実績：アクセス件数(23年度)      トップページ      約5万件                      システム全体      約580万件                      情報の提供機関(23年度末)      1,410機関</p>
主な成果	<p>◎ 新しい「生涯学習推進計画」の策定に向けて、「学びを生かす」、「地域の絆づくり」、「持続可能な社会の構築」といった取組の視点と、スケジュールの素案を愛知県生涯学習推進本部に示した。</p> <p>◎ 県、市町村、大学等の生涯学習関係機関・団体が保有している学習案内情報や学習教材を、インターネットを通じて総合的に県民に提供した。</p>
自己評価	
☞ 目標に合う成果があったか。	<p>☼ 少子高齢化など社会構造の変化、改正教育基本法における生涯学習関連条項の新設、持続可能な社会の構築の要請などを背景として、本県の生涯学習に関する施策を総合的に推進する計画策定に向けた準備を進めることができ、目標に合う成果があった。</p>

<p>👉 今後の課題・方向性はどうか。</p>	<p>🌸 社会状況の変化に対応した情報の提供をさらに充実させるとともに、社会のニーズに対応したコンテンツの充実に努め、システム全体のアクセス件数も22年度から約40万件増加し、23年度は約580万件となっており、目標に適う成果があった。</p> <p>🌸 今後、生涯学習審議会等からの意見を踏まえ、平成24年度末の策定に向けて準備を進めていく。</p> <p>🌸 高度情報化社会の中で、「学びネットあいち」学習コンテンツの充実などにより、アクセス件数やリピーター件数の増加を図ることで、持続的・継続的な生涯学習情報を発信していく。今後も、学習情報登録方法の簡素化を図ったり、情報内容を見やすくするなど、利用する側に立った改善と合わせて、情報提供機関の拡大に努めていく。</p>
-------------------------	--

② 「新しい公」の担い手となる人材や団体の育成 …… 3事業

区 分	内 容
<p>主な事業の取組</p>	<p>○ <b>子育てネットワーカーの養成</b> [詳細164頁]              「子育てネットワーカー養成講座」を開催し、地域における家庭教育支援者を70人養成するとともに、子育て理解促進のためのふれあい体験や交流会の実施、「親の学びの機会」を保障する取組、子育てに役立つ情報提供等を行った。              ☆ 実績：子育てネットワーカー（累計1,387人）（23年度末）</p> <p>○ <b>総合型地域スポーツクラブの育成支援</b> [詳細176頁]              地域住民が主体的に運営する「総合型地域スポーツクラブ」の創設と発展を支援し、誰もが、いつでも、どこでも、スポーツに取り組むことができる環境の整備を進めた。              ☆ 実績：[創設済] 37市町97クラブ（68.5%）、[創設準備中] 9市町（16.7%）、[未育成] 8市町村（14.8%）（平成24年3月末）</p> <p>○ <b>高校生防災リーダーの育成</b> [詳細98頁]              名古屋大学と共催で「高校生防災セミナー」を開催し、防災に関する幅広い知識を持ち、地域防災を主体的に進めることのできる人材を育成した。              ☆ 実績：高校30校の生徒合計125人を対象として防災セミナーを開催</p>
<p>主 な 成 果</p>	<p>◎ 「子育てネットワーカー」は新たに70人を養成し、行政との協働による家庭教育支援活動が行われた。また、子育て支援事例を発表するフォーラムにより、家庭教育支援活動について理解を深めることができた。</p> <p>◎ 「総合型地域スポーツクラブ」については、23年度は新たに2市1町に設立されたほか、設立に向けて具体的な準備をはじめると増加するなどの成果があった。</p> <p>◎ 高大連携「高校生防災セミナー」に参加したほとんどの教員及び生徒が防災について真剣に考え、周囲にも広めていきたいとの考えを持つようになるなど、防災に関する意識が高まり、将来の防災リーダーの育成を図ることができた。</p>

自 己 評 価	
<p>☞ 目標に合う成果があったか。</p> <p>☞ 今後の課題・方向性はどうか。</p>	<p>☼ 「子育てネットワーカー養成講座」や「高校生防災セミナー」は、毎年、実施しており、また、「総合型地域スポーツクラブ」についても毎年クラブ数が増加してきているなど、「新しい公」の担い手育成は順調に行われていることから、成果があったと考えられる。</p> <p>しかしながら、養成された人のその後の活動につなげる仕組みづくりが課題となっている。</p> <p>☼ 今後も、子育てネットワーカーや、総合型地域スポーツクラブ、地域の防災リーダーなど、様々な分野において、「新しい公」の担い手を育成していくとともに、学んだ成果を活かし活躍できる機会の充実に努めていく。</p>

③ シニア世代による地域の教育力の向上 ・ ・ ・ 2事業

区 分	内 容
<p>主な事業の取組</p>	<p>○ <b>団塊世代地域活動デビュー応援事業</b> [詳細 163 頁]</p> <p>団塊の世代を対象に、地域活動に関する知識やボランティア活動の体験などを紹介する講座を開催することにより、地域活動を身近に感じてもらうとともに、地域活動への不安の解消を図るなど、団塊世代の人たちが地域活動に参加するきっかけづくりを行った。</p> <p>また、市町村等の関係者を対象に、本事業の成果についての報告会を開催することにより、各市町村における団塊世代の活用策や、生きがい対策、地域の支え合い体制づくりなどに活用する取組を行った。</p> <p>☆ 実績：団塊世代地域活動デビュー応援事業 4ヶ所、267人参加</p> <p>○ <b>あいちシルバーカレッジの開講</b> [詳細 163 頁]</p> <p>「あいちシルバーカレッジ」(委託先：愛知県社会福祉協議会福祉生きがいセンター)を開催し、高齢者に学習の場を提供し、高齢者の生きがいづくりを進めた。</p> <p>☆ 実績：県内4か所、愛知県内在住の高齢者(60歳以上)500人(文化学科350人、健康福祉学科150人)が参加、就学年限1年(30日間)</p>
<p>主 な 成 果</p>	<p>◎ 「団塊世代地域活動デビュー応援事業」については、現状の社会構造や地域の社会福祉についての講演を行った結果、講座を受講した人が実際にボランティア活動を始めるなど、地域活動へ参加するきっかけづくりを行うことができた。</p> <p>参加者からは、「地域で行っているボランティア活動を、これからも自信を持って進めて行こうという勇気が出た。」などの声があり、団塊世代の中に、ボランティア活動等に対する認識と意欲が高まった。</p>
自 己 評 価	
<p>☞ 目標に合う成果があったか。</p>	<p>☼ 団塊世代の中に、ボランティア活動等に対する意欲が高まったなどの成果が示されており、目標に合う成果があったと考えられる。</p>

<p>👉 今後の課題・方向性はどうか。</p>	<p>🌸 今後は、高齢者に対して、地域活動への参加希望に関する意識調査を行うことや、事業の成果を実際の地域活動につなげていく方法を検討していく必要がある。</p>
-------------------------	---

**④ 持続可能な社会の構築に向けた教育に関する取組の推進 …… 1事業**

区 分	内 容
<p>主な事業の取組</p>	<p>○ <b>ユネスコスクールの加盟促進</b> [詳細 166 頁]                  一人一人が地球上の資源・環境・エネルギーの有限性や環境破壊、貧困問題等を自らの問題として認識することにより、将来にわたって安心して生活できる持続可能な社会の構築に向けた教育（持続発展教育：E S D）の推進拠点である「ユネスコスクール」の加盟促進を図るため、活動実績のある地域や、環境・国際理解関係の学科・コースを設置している高校、環境・国際理解関係の活動に積極的に取り組んでいる特別支援学校へ働きかけを行うとともに、加盟申請に関する助言等を行なった。                  ☆ 実績：平成23年度 加盟承認1校（平成23年度末までの加盟承認校3校）、日本ユネスコ国内委員会に加盟申請中11校</p>
<p>主 な 成 果</p>	<p>◎ 新たに1校が加盟承認され、11校が申請するとともに、市町村主催でユネスコスクールへの加盟説明会が開催されるなど、加盟に向けた機運を高めることができた。</p>

**自 己 評 価**

<p>👉 目標に合う成果があったか。                  👉 今後の課題・方向性はどうか。</p>	<p>🌸 地域の大学の支援の下、ユネスコスクールの加盟申請中の学校が着実に増加しており、目標に合う成果があった。                  🌸 「国連E S Dの10年」最終年合が2014年秋に愛知・名古屋で開催されることになっており、今後、ユネスコスクールへの加盟を一層促していくとともに、ユネスコスクール加盟校が地域と協働して行うE S D活動の充実にも取り組んでいく。</p>
--	---

**⑤ 文化芸術に触れ親しむ機運の醸成 …… 5事業**

区 分	内 容
<p>主な事業の取組</p>	<p>○ <b>あいちトリエンナーレ地域展開事業</b> [詳細 168 頁]                  尾張、三河、山村、離島地区において、現代美術作品の制作・展示や、若手芸術家育成のための事業を実施し、「あいちトリエンナーレ2010」の開催成果の普及と「あいちトリエンナーレ2013」の開催気運醸成を図った。                  ○ <b>子どもたちへの文化芸術体験機会の提供</b> [詳細 167 頁]                  「あいちトリエンナーレ地域展開事業」の中で、子どもたちが自由に創作できる場を美術展会場等に設置したり、地域の文化施設で実施される美術展や舞台公演と連携したワークショップを実施し、子どもたちが芸術家による指導を受ける機会を提供するなど、子どもたちの豊かな感性、創造性を刺激し、文化芸術への理解を深める機会を提供した。</p>

	<p>☆ 実績：(創作活動場の設置) 平成23年10月～24年2月                  3市町・離島                  (ワークショップの実施) 平成23年9月～24年2月                  尾張・三河・山村・離島 31回</p> <p>○ <b>愛知芸術文化センターの運営</b> [詳細169頁]                  愛知県美術館、愛知県芸術劇場、愛知県文化情報センター及び愛知県図書館で構成される愛知芸術文化センターを管理運営し、芸術文化の振興及び普及を図った。</p> <p>☆ 実績：愛知県美術館 (入館者数 711,001人)                  愛知県芸術劇場 (利用者数 589,475人)                  愛知県文化情報センター (入館者数 468,600人)                  愛知県図書館 (入館者数 668,025人)</p> <p>○ <b>地域子ども文化活動育成事業</b> [詳細168頁]                  学校と地域の文化芸術団体等が、和太鼓・日本舞踊・三味線・吟詠の指導や交流活動などを通じて、地域や学校の文化芸術活動の活性化を図った。</p> <p>○ <b>児童生徒ふれあい文化活動育成事業</b> [詳細171頁]                  高校生の文化・芸術活動の総合的な発表会である「アートフェスター愛知県高等学校総合文化祭一」を開催し、文化・芸術に対する高校生の関心を高めるとともに、創造性豊かな人間の育成を図った。</p> <p>☆ 実績：8月開催、舞台・文芸・展示の各部門、延べ124校参加、881人出演、3,935人観覧</p>
<p>成 果</p>	<p>◎ 「あいちトリエンナーレ地域展開事業」では、現代美術の作品を街の中に展示したことにより、来場者から、「現代美術を身近に感じることができた」などの意見が多くあり、アンケートに来場の80%以上が「よかった」と回答するなど、文化芸術に対する県民の理解と関心を高めることができた。</p> <p>◎ 「子どもたちへの文化芸術体験機会の提供」については、ワークショップの参加者アンケートでは、94%の子どもたちが「よかった」と回答するなど、子どもたちの文化芸術に対する関心を高めることができた。</p> <p>◎ 「地域子ども文化活動育成事業」では、小・中・高校生の文化芸術活動に対して、文化活動団体等が指導したり、相互に交流活動を行うことにより、技術力の向上や連携が深まり、地域における文化活動を活性化する基盤がつけられた。</p> <p>◎ 愛知県高等学校文化連盟に加盟する県内の公・私立の文化部活動の生徒が、その分野・種目の枠を超えて一堂に会して、総合的な文化芸術活動事業を実施することにより、出演者相互の交流が図られるとともに、それぞれの表現力や技術力の向上を図ることができた。</p>
<p>自 己 評 価</p>	
<p>☞ 目標に合う成果があったか。</p>	<p>✿ 「あいちトリエンナーレ地域展開事業」や「子どもたちへの文化芸術体験機会の提供」では、多くの参加者から「よかった」との声が聞かれるなど高い評価を受けており、また、アートフェスタでは、日頃から文化芸術活動に取り組んでいる公私立高校の生徒たちが一堂に会することで活動の質がさらに高まるなどの成果が示されており、目標に合う成果があったと考えられる。</p>

<p>👉 今後の課題・方向性はどうか。</p>	<p>🌸 「地域子ども文化活動育成事業」をモデルとして、多くの市町村において参加型の企画が開催されるように促していくとともに、文化芸術団体相互の連携を図ることにより、すべての地域において、子どもたちが芸術に触れる機会を提供できるよう努めていく必要がある。</p> <p>アートフェスタは、高校の文化部活動で活動する、異なる分野の高校生が同一会場で日頃の成果を発表し合う唯一の機会であり、今後も引き続き実施していく。</p> <p>また、あいちトリエンナーレ2010で盛り上がった文化芸術に対する関心の高まりを県内全域に広めるとともに、あいちトリエンナーレ2013の開催気運を醸成していくため、地域展開事業を継続的に実施していく必要がある。</p>
-------------------------	---

**⑥ 民俗芸能をじかに体験できる機会の提供 ・ ・ ・ 1事業**

区 分	内 容
<p>主な事業の取組</p>	<p>○ <b>ふるさと遺産サポート事業</b> [詳細172頁]                      伝統文化出張講座の開催や、天然記念物の保護・普及啓発を行うことにより、住民や子どもたちが郷土の自然や文化財を守り、未来に伝える環境整備を図った。</p> <p>☆ 実績：伝統文化出張講座の開催（保存団体4団体・4小学校）、「木曾川堤（サクラ）」の樹勢回復、県内の国・県指定文化財をデジタル図録により公開</p>
<p>主 な 成 果</p>	<p>◎ 郷土の伝統芸能を直に体験・練習・発表する「伝統文化出張講座」を開催することにより、地域の無形民俗文化財への理解と伝承の大切さについて、子どもたちの意識を高めることができた。</p>

**自 己 評 価**

<p>👉 目標に合う成果があったか。</p> <p>👉 今後の課題・方向性はどうか。</p>	<p>🌸 地域の無形民俗文化財への理解と伝承の大切さについて、子どもたちの意識を高めることができたとの成果が示されており、目標に合う成果があったと考えられる。</p> <p>🌸 伝統文化出張講座に参加した児童が、民俗芸能等の後継者へと結びつく取組となるよう講座内容を工夫していくとともに、天然記念物等の保護の意識を向上させるため、自然観察会を開催するなど、普及啓発活動の内容をさらに充実させていく必要がある。</p>
--	--

**⑦ 伝統文化を尊重する心の育成 ・ ・ ・ 1事業**

区 分	内 容
<p>主な事業の取組</p>	<p>○ <b>朝日遺跡発掘調査の成果活用</b> [詳細173頁]                      朝日遺跡の発掘調査報告書に掲載された遺物（約2万点）を中心に、出土遺物の再確認を行い、平成22年度までに抽出した代表的出土品（約3,000点）の詳細なデータベースを作成した。</p>

<p>主 な 成 果</p>	<p>◎ 国内有数の遺跡として、出土遺物を重要文化財に指定するための適切な再整理、資料作成を行うことができた。                  また、朝日遺跡の発掘調査の成果を一般に分りやすく伝えるための解説書を作成・配付することにより、愛知の誇る文化財を県民に普及啓発するとともに、子どもたちに地域の歴史や文化に親しむための資料を提供することができた。</p>
<p><b>自 己 評 価</b></p>	
<p>☞ 目標に合う成果があったか。</p> <p>☞ 今後の課題・方向性はどうか。</p>	<p>✿ 子どもたちや県民に、地域の歴史や文化に親しむための資料を提供することができたなどの成果が示されており、目標に合う成果があったと考えられる。</p> <p>✿ 東海地方最大級といわれる弥生時代の集落「朝日遺跡」からの出土品と史跡の適切な保管と有効な活用を図るため、新たな資料館の整備を含めた今後のあり方について検討していく。</p>

**⑧ 「愛知県版体力向上運動プログラム」の普及などによるスポーツの振興 …… 2事業**

区 分	内 容
<p>主な事業の取組</p>	<p>○ <b>総合型地域スポーツクラブの育成支援【再掲】</b> [詳細 176 頁]                  地域住民が主体的に運営する「総合型地域スポーツクラブ」の創設と発展を支援し、誰もが、いつでも、どこでも、スポーツに取り組むことができる環境の整備を進めた。                  ☆ 実績：〔創設済〕 37 市町 97 クラブ (68.5%)、〔創設準備中〕 9 市町 (16.7%)、〔未育成〕 8 市町村 (14.8%) (平成 24 年 3 月末)</p> <p>○ <b>愛知県版体力向上プログラムの普及</b> [詳細 175 頁]                  小学校の担当教員を対象に「子どもの体力向上運動プログラム講習会」を開催し、「愛知県版体力向上運動プログラム」(平成 22 年度作成)の内容の周知を図った。                  また、協力校において、運動プログラムの実践による体育授業や運動に対する子どもたちの意識や動きの変容についての検証などを行い、活用方法の研究を行った。                  さらに、子どもの体力向上支援委員会を設置し、子どもの体力を向上させるための具体的方策を検討した。                  ☆ 実績：協力校 4 校における体力向上運動プログラムの実践、実践報告書の作成、実技講習会の開催</p>
<p>主 な 成 果</p>	<p>◎ 「総合型地域スポーツクラブ」については、23 年度は新たに 2 市 1 町に設立されたほか、設立に向けて具体的な準備をはじめめる市町が増加するなどの成果があった。</p> <p>◎ 「愛知県版体力向上プログラム」のねらいを指導者が理解し、授業に生かすことができるよう、実技を交えた講習会を実施することにより、指導の充実を図ることができた。</p>

自 己 評 価	
<p>☞ 目標に適う成果があったか。</p> <p>☞ 今後の課題・方向性はどうか。</p>	<p>☼ 「総合型地域スポーツクラブ」については、クラブ数が毎年増加しており、また、「体力向上プログラム」については、「担当教員の指導力の充実が図られた」などの成果が示されており、目標に沿った成果があったと考えられる。</p> <p>☼ 「総合型地域スポーツクラブ」については、今後も創設と育成を支援していく。</p> <p>また、「愛知県版体力向上プログラム」については、今後も協力校において運動プログラムを活用した授業のあり方を研究し、授業公開を行うとともに、体育授業における運動プログラムの活用方法をまとめ、市町村教育委員会や県内各小学校に配付し、子どもの体力向上を図っていく。</p>

⑨ 国際的・全国的なスポーツ大会の開催 …… 3事業

区 分	内 容
主な事業の取組	<p>○ <b>第67回国民体育大会冬季大会の開催</b> [詳細178頁]                      平成24年1月28日(土)から2月1日(水)の5日間、名古屋市、豊橋市、長久手市で、県初となる冬季国体を開催した。</p> <p>☆ 実績：[参加者] 43都道府県 1,711人、観覧者数 24,102人 [成績] スケート男女総合3位・女子総合3位、アイスホッケー総合8位</p> <p>○ <b>第19回日・韓・中ジュニア交流競技会の開催支援</b> [詳細179頁]                      平成23年8月22日(月)から28日(日)の7日間、名古屋市、一宮市、瀬戸市で、日・韓・中ジュニア交流競技会を開催した。</p> <p>☆ 実績：[大会参加者] 日本・韓国・中国・愛知選抜 984人                      [競技] 陸上競技、サッカー、テニス、バレーボール、バスケットボール、ウエイトリフティング、ハンドボール、ソフトテニス、卓球、バドミントン、ラグビーフットボール、11競技                      [交流プログラム] フレンドシップの夕べ、視察研修</p> <p>○ <b>マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知2012の開催支援</b> [詳細179頁]                      「名古屋国際女子マラソン」と「名古屋シティマラソン」を併催し、3万人規模の大マラソン大会として開催した。</p> <p>☆ 実績：参加者 29,116人、名古屋ウィメンズマラソン、名古屋シティマラソン(男女ハーフマラソン、男女10km、ファミリージョギング)、マラソンEXPO</p>
主 な 成 果	<p>◎ 「国民体育大会冬季大会」の各会場には、24,000人を超える観客が来場し、大変盛り上がった大会となった。この大会の成功は、本県のスポーツの普及・振興、とりわけこの地域における冬季スポーツの発展と活力ある愛知づくりに大きく寄与した。</p>

	<p>◎ 「日・韓・中ジュニア交流競技会」については、この大会後に行われた第66回国民体育大会において、愛知県選手団は、実施11競技の少年男女の競技得点が前年度に比べて59.33点増加し、顕著な成果が見られた。特に、選抜メンバーで構成された団体競技の多くが上位入賞を果たすなど、5年ぶりの男女総合成績第3位に大きく貢献した。</p> <p>また、交流プログラムの「フレンドシップの夕べ」や「視察研修」では、各国の相互交流や日本の歴史や文化、産業にも触れるなど、国際理解を深めるなどの役割も果たした。</p> <p>◎ 「マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知 2012」については、世界28の国と地域、国内47都道府県から約3万人が参加し、沿道に約60万人の観衆が集まるなど、大いに盛り上がった大会となった。</p> <p>また、この大会は、ロンドンオリンピックの最終代表選考会を兼ねていたため、国内トップランナーが多く集まり、好レースが展開された。</p> <p>さらに、ウィメンズマラソンの参加者は13,114人となり、「女性だけのマラソン大会として参加者世界一」というギネス世界記録に認定された。</p>
<b>自 己 評 価</b>	
<p>☞ 目標に適う成果があったか。</p> <p>☞ 今後の課題・方向性はどうか。</p>	<p>✿ いずれの大会も多くの観客を動員するなど成功裡に終わっており、また、その後の国体で本県選手団の競技力が高まったなどの成果が示されており、目標に適う成果があったと考えられる。</p> <p>✿ 「国民体育大会冬季大会」の本県開催により、とくに冬季スポーツへの県民の関心が高まったため、これを契機として、今後、一層の普及・振興を図っていく。</p> <p>「日・韓・中ジュニア交流競技会」については、出場した選手がオリンピックをはじめとした世界の舞台で活躍し、アジアのスポーツ界をリードすることが期待されるとともに、スポーツを通して各国相互の更なる友好と親睦を図っていく。</p> <p>「マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知」については、今回、明らかになった、ボランティアスタッフの確保、仮設トイレの不足などの課題について、次年度の大会に向け、早急に改善を図っていく。</p> <p>また、交通規制についても、地域住民の理解と協力を得ながら、関係機関との連携の下、万全な体制を確立していく。</p>

## 2 自己評価の総括による改善の方向

### 1 「主な施策」の総括的な評価 ～ 取組の視点も踏まえて ～

- ★ シニア世代を含めた「新しい公」を育成し、地域の力を子育てやスポーツへの支援に活用したり、地域づくりに役立てることができた。また、大学との連携の下、高校生の力を地域防災に役立てることができた。
- ★ 児童生徒が芸術に触れあう機会の提供や、郷土を大切に思う心を育む取組を、地域との連携の下に行うことができた。
- ★ 小学生の体力向上を支援するため県が作成した「愛知県版体力向上運動プログラム」の周知を図るとともに、国際的・全国的なスポーツ大会を開催するなど、県としての役割を踏まえ、全ての世代を対象としたスポーツの振興を図ることができた。
- ★ どの施策においても、概ね3つの視点を踏まえながら、「豊かな人生を送るための生涯学習を充実する」といった目標達成に向けた成果が示されていると考えられる。

### 2 「主な施策」以外の取組の状況

- ★ 社会教育委員会議を開催し、「社会教育指導者・生涯学習ボランティアの育成と活用をつなぐ仕組みづくりについて」協議し、取りまとめられた意見を新たな事業に反映した。
- ★ 女性教育指導者研修会、安心ネットインストラクター等の指導者養成講座修了生に対して働きかけ、生涯学習ボランティアに登録してもらうとともに、学びの成果を実際に生かす機会の提供や、その活用について市町村への働きかけを行った。
- ★ 高等学校等を卒業していないなどのため、大学の受験資格がない者に対し、高等学校卒業と同等以上の学力があるかどうかを認定することを目的として、高等学校卒業程度認定試験を実施し、624人に合格証書が授与された。
- ★ 教育委員が、愛知県埋蔵文化財調査センター及び（公益）愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターを訪問し、本県の埋蔵文化財行政の現状と課題について調査した。  
また、市立小学校及び総合型地域スポーツクラブの現地調査を行い、小学校における体力向上に向けた取組や総合型地域スポーツクラブの現状と課題について、関係者と意見を交換した。

### 3 平成24年度意識・実態調査から見た課題

- ★ 「この1年間、学校の授業以外で、1回以上、文化や芸術の体験をした」と答えた児童生徒の割合は、小学生89.3%、中学生76.4%、高校生59.0%だった。  
一方で、「この1年間、学校の授業以外で、文化や芸術の体験をしていない」と答えた児童生徒の割合は、高校生が最も高く、39.8%だった。
- ★ 「平日(月～金曜日)には、1日に1時間以上、運動やスポーツをしている」と答えた児童生徒の割合は、小学生63.7%、中学生72.3%、高校生54.5%だった。  
一方で、「平日(月～金曜日)には、全く運動やスポーツをしない」と答えた児童生徒の割合は、高校生が最も高く、17.5%だった。

◎ 評価のまとめ ～ 今後の改善の方向 ～

- ★ 「豊かな人生を送るための生涯学習の充実」については、地域・大学と連携・協力した取組、日々の学校における教育活動、県教育委員会による市町村教育委員会・学校への支援・指導などを通して、その充実を図るための取組が推進されている。
- ★ しかしながら、児童生徒の意識実態調査を見ると、「授業以外に全く文化や芸術の体験をしていない」と答えた高校生が39.8%、「平日には全く運動やスポーツをしない」と答えた高校生が17.5%を占めることから、こうした実態を踏まえて施策の充実を図っていく必要がある。
- ★ また、有識者の意見にもあるように、地域に根ざした文化活動の奨励、日頃から子どもが授業以外で運動に親しむ環境づくり、家庭・地域・学校が一丸となった食育や健康教育の推進、県が主体となって担うべき役割を踏まえた社会の絆づくりや地域の教育力を高める取組の一層の推進を図っていくことが必要である。
- ★ 全体として、幼児期から高齢期まで、様々な取組が行われているが、個人が学んだ成果を社会に積極的に還元していく仕組みが十分とは言えないことから、今後は、ライフステージに応じた学習支援の充実はもとより、世代間の交流促進を図りつつ、個人の学びの成果を地域との連携、課題解決に活かすことを目的とした施策の展開に努める必要がある。

### 3 有識者の意見

〔有識者の意見は、点検・評価報告書原案に対するものであり、本冊子は、この意見を踏まえて作成している。〕

#### 神奈川大学 特別招聘教授 安彦忠彦

重点目標4は、県民の生涯学習への機会を十分に提供し、またその担い手を育てることが意図されているようであるが、個々の取組が多様なうえに小規模なものが多いように見受けられる。

また、「ユネスコ・スクール」加盟がこの重点目標の取組の一つに入っていることに違和感を覚える。これは生涯学習の取組とは言えないので、別のところに入れるべきではないか。検討してほしい。

「生涯学習」は県民の自己教育への要求に応えるという意味で、県民自身の「私教育」への支援が中心であり、国や県などの政府・自治体が主体となっていく学校教育や社会教育などの「公教育」とは性格が異なるものである。その意味でも「成果・効果」を見るのは容易ではないが、「支援」策が効果を上げているか否かは何らかの形で測らねばならない。

例えば、スポーツ振興などでは、施設・環境整備による利用率の向上ないし目標達成率などで、また健康教育の充実などは、それによる医療費の減少などで、また児童虐待の防止などでは虐待件数の減少とかというもので、その成果が数字で表される必要がある。部分的であっても、効果を示すものとして使える指標であれば、そう断った上で活用すべきである。

#### 愛知淑徳大学文学部教育学科教授 中野靖彦

学校での読書活動の活性化、保護者の読書への関心の向上。保護者向けの子育てや趣味に関する本やビデオの設置等、学校図書館や公立図書館の充実。

地域には、その地域の文化があり継承の仕方も異なる。地域文化活動育成事業が3件と少ない。地域に根ざした文化活動の奨励がシニア世代の活動の場を広げる。

いつでも、どこでもスポーツに取り組める環境の整備が行われているかどうか。日常的な部活動や遊びを通して子どもの体力向上を図ることと、スポーツ事業のレベルが異なっている感じがする。年齢や体力に応じたスポーツ振興が求められる。日頃から子どもが授業以外で、運動に親しむ環境づくりが必要である。からだと心の健康は両輪であり、食育や健康教育推進事業も学校、家庭、地域がもっと一丸となって進めるべきものである。

児童虐待が減っていない中で、子育てネットワークの育成と家庭を繋ぐ事業の拡大は急がれる。NPO、ボランティアが積極的に地域に出かけ、情報の発信が必要である。

子どもたちをどう自然に親しみさせ、環境を考えさせるかが課題である。ストップ温暖化や環境を家庭から離れてできる体験型の環境学習（科学的な実験だけでなく、動、植物の観察等々）ができる状況を作る必要がある。

中部大学現代教育学部児童教育学科教授 今川峰子

1990年に生涯学習審議会が発足して以来、学んだ成果をどのように活かすのかは中心的な課題であった。近年では、多様なニーズに応える「新しい公」の担い手の育成とその活躍の場をつくることが提唱されてきている。3.11 東日本大震災の教訓から、日本では地域の絆の大切さを再認識したことにより、②「新しい公」の担い手となる人材や団体の育成、③シニア世代による地域の教育力の向上は、施策として重要性を増してきている。ただ、参加者がまだそれほど多くない。予算化を図り、社会の絆づくりや地域の教育力を高めるための事業として発展させてほしい。このためには、各市町村で展開されている事業の実態を把握し、県が主体となって担うべき役割を踏まえて事業を推進して欲しい。

重点目標4の総括で、実態調査をもとに、学校の授業以外に文化や芸術体験、運動やスポーツを全くしていないと答える割合は高校生が最も高い。小学校では子ども会活動など地域の事業で運動や文化・芸能に親しむ機会がある。しかも、公民館を拠点として、公民館祭りに地域の小・中学校の児童生徒を参加させ、ボランティア活動だけでなく演奏会・絵画の発表等、地域の学校に参加を働きかける努力によって、活動の輪は広がりつつある。ただ、高校生になると、地域を越えた学校に通うことが多く、地域の行事から離れてしまう。生涯にわたって文化・芸術・スポーツに親しむ素地は高校・大学で養われていく。社会人になって落ち着いてくると、再度、音楽、絵画、俳句、野球などを始めて、退職後も趣味やスポーツ活動を続ける人が少なくない。生涯にわたって音楽、芸術、文化、スポーツなどを続けるには、中学・高校・大学時代の活動がベースにある。このため、高校生・大学生にも働きかけることができるような活動にすることが望まれる。

第1章 重点目標に沿った平成23年度の主な施策の点検・評価  
～ 重点目標4 豊かな人生を送るための生涯学習を充実します。